

猿 橋
小学校

瑛玖良

瑛玖良校は明治期における
猿橋小の旧名。切磋琢磨の
意が込められている。

渡り鳥の季節

校長 磯部 裕之

10月の中旬、民生委員の皆さんと玄関前の交差点に立っていると、学校の屋根の上の高いところをV字になって飛んでいくものがありました。「冬の使者」白鳥です。

「あっという間に、こんな季節になったねえ」とそんな声が聞かれました。そのまま教室に入ると、1年生の男の子が「今日、白鳥の声聞いたよ。『クォー、クォー』って鳴いてた」と教えてくれました。ついこの前まで「暑い暑い」と言っていたのが嘘のように、季節は、間違いなく秋から晩秋へと移り変わっていくようです。

インターネットで白鳥のV字飛行について調べてみようと思ったら、松井 寛輔（まついひろすけ）さんというお医者さんが書かれた文が目に残りました。

科学雑誌「Nature」に鳥のV字隊列に関する論文が掲載されていました。結論から述べると鳥がV字隊列を組むのは省エネです。先頭の鳥は負担が大きく体力を消耗します。別の論文によると、先頭の鳥は交代するようです。先頭を飛ぶのはリーダーとは限らないのです。すべての鳥が先頭を分担し、先頭になろうとしないずるい鳥はいなかったと報告されています。鳥たちは、人間以上に社会性のある生き物だと驚いてしまいます。過酷な自然環境の中、仲間と助け合いながら生きている白鳥たち。人間は、渡り鳥からもっとたくさんのかことを学ぶべきでしょう。
(途中一部省略)

実は、私もV字飛行の先頭を飛ぶ鳥の負担が大きく、交代しながら飛ぶというのは聞いたことがあったのですが、何羽かのリーダーが担うものだと思っていた。この松井さんの記事が本当であれば、白鳥は一羽一羽がお互いを支え合い助け合う、実に社会性のある鳥だということになります。はるかシベリアから約3000キロもの距離を命がけで渡ってくる白鳥たち。改めてすごいなぁと感じました。

さて、2学期に入り学校では縦割り班（きらきら班）での遊びや本の読み聞かせが行われています。もちろん、5・6年生がリーダーとして活躍してくれていますが、他の学年の子どもたちも、それぞれが班の一員として役割や責任をもちながら活動することで、よりよい活動になっています。みんなで力を合わせながら、実りの秋となるように、学校生活を充実させていきたいと思っています。



【きらきら班遊びでのひとコマより】